

1 生活科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 目標・内容の明確化・構造化

① 生活科の目標

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会および自然との関わりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

- 生活科の教科目標を最も端的に言えば「具体的な体験を通して、自立への基礎を養う」ことである。
- 「言語活動の充実」を意識し過ぎる余り、話し合いや文章表現のさせ方ばかりを意識し過ぎることのないようにしていくことが大切である。「豊かな体験」、「表現したくなる体験」があって初めて表現につながる。「具体的な活動や体験」を、今まで以上に重視してほしい。

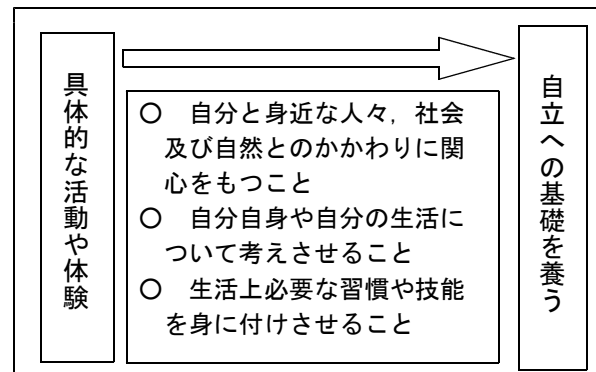


図 1

② 学年の目標

- 2 学年共通。四つの項目で構成されている。目標 (3) 「自分のよさや可能性に気づき、自分の成長についての一人一人の認識を深めること」が更に重視されたことから新設された。

【目標の構成】

- 主に自分と人や社会とのかかわりに関すること
- 主に自分と自然とのかかわりに関すること
- 自分自身に関すること
- 生活科特有の学びに関すること

- 「自分」と「社会事象」とのかかわり、「自分」と「自然事象」とのかかわりを通して、「自分自身」のよさや可能性に気付いていく。そのかかわりの部分が活動と表現であり、生活科特有の学びである。

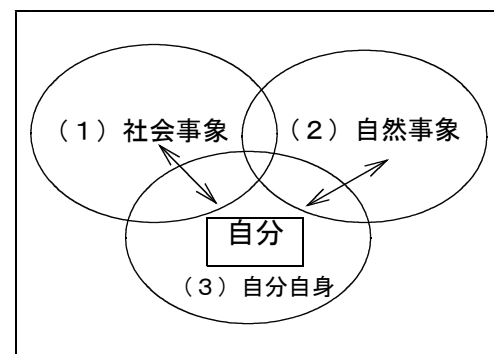


図 2

- 学年目標の (1) (2) (3) それぞれに、「～に気づき」という表現がなされている。今回の改訂の特徴であり、「気づきの質を高める」ことを意識したものである。

③ 内容の構成要素と階層性

- 九つの各内容を三階層に表した。〔詳細については、学習指導要領解説 P.22 参照〕
- 特に、内容 (8) 「生活や出来事の交流」は子供たちのコミュニケーション力の育成と言語活動の充実を具現化するために、新設された。これからの情報化社会で生きていく子供たちのために、情報の交流・収集・発信を意識した内容である。
- 内容 (7) 「動植物の飼育・栽培」においては、継続的な飼育、栽培を行うことが強調された。生き物を飼う際、適切な環境とはどのようなものなのか、獣医など専門家の知見も取り入れていくことも重要である。

(2) 気付きの質

① 気付きの質とは

- ・ 低学年の場合は、瞬間的にいろいろなことに気付くが、それが自分の中で明確に意識化されていないことが多い（無自覚の状態）。学習を通して意識化させていくことが、無自覚から自覚へ気付きの質が高まっていくことになる。
- ・ 一つ一つの事象（例えば自然物における形の変化、色の変化、状態の変化など）に対する気付きが、お互いを関連付けた気付きへと変わっていくことで、気付きの質が高まっていく。
- ・ 対象と自分自身との関わりを深め、対象の変化に気付くと同時に、そこに映し出される自分自身の成長への気付きが生じる。この積み重ねが気付きの質を高めていくことにつながる。
- ・ 気付きの質が高まることがゴールではない。気付きが次の自発的な活動を誘発していくことが重要である。

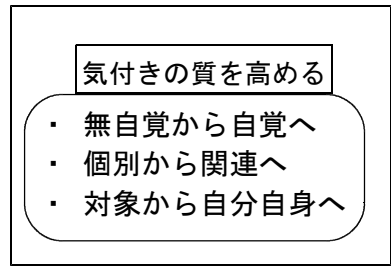


図 3

② 気付きの質を高めるための学習指導 [詳細については、学習指導要領解説 P.64～P.66 参照]

【振り返り表現する機会を設ける】

児童は振り返り表現することで、活動や対象を見つめ直したり、過去のことや周りのことと比べたりすることになり、それが気付きの質を高めていく。

【伝え合い交流する場を工夫する】

体験したことや調べたことを互いに伝え合い交流する中で、一人一人の気付きが質的に高まることにつながる。さらに、一人一人の気付きを全員で共有し、高めていくことが重要である。

【試行錯誤や繰り返す活動を設定する】

試行錯誤して何度も挑戦する中で、事象を注意深く見つめたり予想を確かめたりするなどの科学的な見方や考え方の基礎を養うことにもつながる。

【児童の多様性を生かす】

児童の思いや願いに寄り添うことは、学習活動に多様な広がりを生み出す。児童の学習活動が多様であるということは、それぞれの気付きも多様であるということであり、それぞれの違いや共通点を見付け出す活動を通して、気付きが質的に高まっていく。

(3) 言葉（表現）と体験

- ・ 言語活動の充実と言われるからこそ、それ以上に「体験」を重視すべきである。体験することで言葉も豊かになり、体験することで語いも増える。アウトプットさせるためには、インプットが重要である。体験活動が充実していることが、言語活動の充実につながる。
- ・ 言語活動だからといって、文字言語や音声言語にとらわれるのではなく、生活科では特に、絵、動作、劇化など子供たちの多様性を考慮することが大切である。

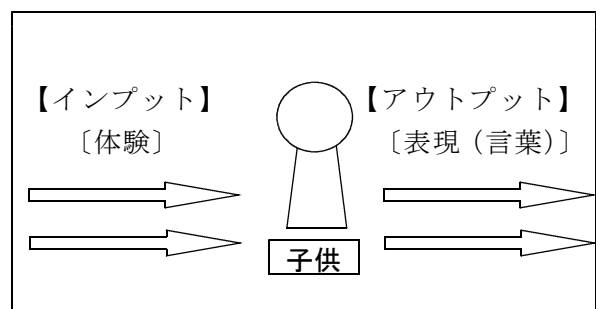


図 4